

令和 4 年 6 月 17 日現在

機関番号：34513

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2021

課題番号：18K00078

研究課題名（和文）戦後期青森県地域におけるカトリックの宣教と受容に関する調査研究

研究課題名（英文）Research on Catholic Missions and Reception in the Aomori Prefecture Region after the War

研究代表者

木鎌 耕一郎 (Kikama, Koichiro)

神戸松蔭女子学院大学・人間科学部・教授

研究者番号：90295965

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,000,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、青森県地域の地域的特性（辺境性、貧困）の視点に基づいて、主に戦後期カトリック教会の「教化・定着過程」と「受容状況」の実態調査を目指した。予備的な研究として、明治期におけるカトリック宣教師の動向を調査し、当時のパリ外国宣教会における旧士族青年層に対する教育をめぐる宣教政策とのつながりを明らかにすることができた。また付帯な研究として、八戸におけるハリストス正教会の重要人物であるパウエル源昂に関する論考を発表した。研究のために当初三つのフィールド調査を予定していたが、いずれも新型コロナウイルス禍の中で断念せざるをえなくなり、資料収集と文献調査が中心となった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

日本の宗教史研究・キリスト教研究において、「地方」におけるキリスト教宣教・受容史の調査研究は十分とはいえ、とりわけ東北地方のキリスト教史には未開拓の領域がある。青森県地域におけるキリスト教宣教・受容史を、その地域特性（「辺境性」「貧困」）との関わりから総合的に検証することは、日本キリスト教史に新たな視点を加えるという学術的意義がある。

研究成果の概要（英文）：This study aims to investigate the actual state of the missionary process of the Catholic Church mainly after the war, based on the viewpoint of regional characteristics (frontier nature, poverty) of the Aomori Prefecture region. As a preliminary study, I was able to investigate the trends of Catholic missionaries in the Meiji period and clarify the connection with the missionary policy of the Paris Foreign Mission at that time on education for young people. As an incidental study, I published an article on important figures of the Christos Orthodox Church in Hachinohe. Initially, three field surveys were planned for research, but all of them had to be abandoned due to the new coronavirus, and the focus was on collecting materials and conducting literature surveys.

研究分野：キリスト教学

キーワード：カトリック 宣教 青森県 辺境性 貧困

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

日本の宗教史研究・キリスト教研究において、「地方」におけるキリスト教宣教・受容史の調査研究は十分とはいえない。とりわけ東北地方のキリスト教史には未開拓の領域がある。地方におけるキリスト教宣教・受容史については地域的特性との関わりから読み解く視点が必要と考えられる。青森県地域の地域的特性としては、歴史上「辺境性」および「貧困」を挙げることができる。青森県地域におけるキリスト教宣教・受容史を総合的に検証することは、日本キリスト教史に新たな知見を加えることができるという見通しがあった。

2. 研究の目的

これまで日本とキリスト教の出会いがあった三つの時期における、研究を行ってきた。本研究は、第三の時期(戦後期)におけるケベック外国宣教会による宣教司牧活動とその受容の状況を、ケベック外国宣教会本部資料の入手と文献研究、仙台教区教勢データに基づく量的調査、国立療養所松丘保養園(ハンセン病療養施設)内の教会の入所者信者のライフヒストリー調査(質的調査)を通して、青森県地域のキリスト教宣教・受容史を、地域的特性(辺境性、貧困)に焦点を当て、総合的に検証することが目的である。

3. 研究の方法

本研究では、三つのフィールド調査を予定していたが、いずれも新型コロナウイルスの影響で実現できず、文献調査と資料収集が主体となった。予定していたフィールド調査のひとつは、ケベック外国宣教会の宣教司牧活動に関する資料収集・調査である。日本の近代化とキリスト教宣教にとってカナダの宣教師たちの影響は大きく、とりわけカトリックではケベックの修道会の活動が顕著である。明治・大正期に日本に設置されたカトリック系宗教団体約100のうち24団体がケベック系である。青森県での活動は戦後期に始まり、1949(昭和24)年からケベック外国宣教会が宣教司牧を担当している。青森県地域における「辺境性」と「貧困」という地域的特性と、同修道会の活動方針が、本来的に親和性があったという見通しのもと、現実にどのような宣教司牧政策が策定され展開されたかについて検証する予定であったが、文献調査に留まった。予定していた二つ目のフィールド調査は、カトリック仙台司教区所蔵データに基づく教勢動向調査だった。青森県地域におけるカナダ管区ドミニコ会管轄期の一部と、1949(昭和24)年以降のケベック外国宣教会管轄期の教勢データの分析を通して、第三の時期における青森県での宣教司牧活動の展開を実証的に明らかにする予定であったが、訪問を見合わせざるを得なかった。三つ目に予定していたフィールド調査は、ライフヒストリー調査(聞き取り)であった。1909(明治42)年に設立された国立療養所松丘保養園の存在は、青森県の「辺境性」と「貧困」という地域的特性を具体的に示すひとつの象徴といえる。入所者に対する宣教は1912(大正元)年の聖公会の伝道が始まり、カトリックでは1931(昭和6)年からカナダ管区ドミニコ会による宣教が行なわれた。大戦中に教勢は衰えるが戦後復興し、1957(昭和32)年には信者が50名を超え、ケベック外国宣教会により松丘ミカエル教会が設置された。キリスト教受容の契機と療養所環境における信仰生活の特性に関する質問項目を整理し、複数名に対するライフヒストリー調査を通して、ケベック外国宣教会の宣教司牧活動の特性と影響を明らかにする予定であったが、聞き取り調査は見合わせた。結果として資料収集と文献調査が中心となった。辺境性という観点から青森県を中心とする東北地方のキリスト教受容史を研究をすすめる上で、基盤となる資料の収集と文献の読み込みは、一定程度行うことができた。戦後期のカトリック教会の状況は、教皇庁の宣教政策とのつながりから考察する必要があることがわかり、明治期以降の宣教政策やキリシタン関連を含めキリスト教史全般にわたる俯瞰的な文献収集に努めた。

4. 研究成果

2018年度は、主に資料収集とその読み込みに費やした。本研究の推進には、明治期から戦前期の宣教の動向を含めた広い視野が必要となることを実感し、広範囲にわたる資料の検証を優先した。とりわけパリ外国宣教会が担っていた明治期以降の宣教については、当時の西洋の状況(第一バチカン公会議、教皇至上主義、フランスにおける政治状況とカトリック教会の対応など)との関わりを知ることが重要と考え、それに関わる資料収集につとめた。また戦後期におけるカトリック教会の教勢に関するデータの収集にもつとめた。

2019年度は、本研究の予備的な研究として、明治期における青森県関連のカトリック宣教師の動向を調査した。青森県ではじめてカトリック宣教に従事したのは、パリ外国宣教会から弘前に派遣されたジャン・バティスト・オーギュスト・アリヴェ(Jean Baptiste Auguste Arrivet, 1846-1902)である。彼が弘前で最初にカトリック宣教を行った人物であることは、これまで

知られていたが、今回、彼が行った学校運営による宣教手法が、当時のパリ外国宣教会における旧士族青年層に対する教育をめぐる宣教政策とどのようなつながりがあるかを、ある程度明らかにすることができた。また弘前を離任後のアリヴェが、その後宣教師を辞してお雇い外国人教師に転向した事実関係と、その背景として当時の日仏文化交流史に注目して調査を行った。また本研究と付带的にかかわる八戸におけるハリストス正教会の重要人物であるパウエル源昂に関する論考を精査した。

2020 年度も資料収集と文献調査に力を入れた。とりわけ近代日本の地方におけるキリスト教宣教史、受容史に関する資料、東北におけるキリスト教関連施設の施設史にかかわる諸資料、日本宣教にかかわる教皇庁関連文書の洗い出し、東北の地域的特性（辺境性、貧困）に関する資料等の収集を行い、多くの文献を読み込むことができた。戦後期の状況は、明治期以降のキリスト教宣教史、受容史との密接なつながりを常に視野に入れて考察することの必要性を再確認するとともに、フィールド調査ができない壁はあるものの、文献調査を通して本研究の目的はある程度達成することができる見通しをたてることができた。

新型コロナウイルスの終息によりフィールド調査ができることを期待して研究期間を 1 年延長させていただき、辺境性という観点から青森県を中心とする東北地方のキリスト教受容史の研究をすすめる上で、基盤となる資料の収集と文献の読み込みは、一定程度行うことができたものの、フィールド調査できない状況に変化がなかったため、2021 年度の基金に残金が生じ返納することにした。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 木鎌耕一郎	4. 巻 38
2. 論文標題 高山貞美・原敬子編著『正義と平和の口づけ 日本カトリック神学の過去・現在・未来 上智大学神学部創設60周年記念講演会講演集』（文献・図書紹介）	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 カトリック教育研究	6. 最初と最後の頁 121
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 木鎌耕一郎	4. 巻 31
2. 論文標題 宣教師から御雇教師へ ジャン・バプティスト・アルテュール・アリヴェ	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本カトリック神学会誌	6. 最初と最後の頁 47-68
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 木鎌耕一郎	4. 巻 6月号
2. 論文標題 津軽のマリア クララ川村郁のこと	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 カトリック生活	6. 最初と最後の頁 10-12
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 木鎌耕一郎
2. 発表標題 宣教師からお雇い外国人へ ジャン・バプティスト・アルテュール・アリヴェ
3. 学会等名 日本カトリック神学会第31回学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 木鎌耕一郎
2. 発表標題 明治期カトリック宣教師における日本観の諸相
3. 学会等名 2019年度 日本比較文化学会 東北・関東支部合同例会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 木鎌耕一郎
2. 発表標題 安藤昌益と世界哲学（パネリスト）
3. 学会等名 安藤昌益資料館9周年記念シンポジウム
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 木鎌耕一郎・加来聡伸 編	4. 発行年 2020年
2. 出版社 イー・ピックス	5. 総ページ数 278
3. 書名 地域の基層と表層 八戸地域から考える	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関